

第3学年*組 国語科学習指導案

指導者 大野 友美
H30研修センター長期研修

- 1 単元名 広げよう わたしのお話 ～想ぞうしたことから書こう～
教材名 「人物を考えて書こう」(東京書籍 3年)

2 単元の目標

- 絵から想像を広げて、意欲的に物語を書こうとする。(国語への関心・意欲・態度)
- 書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくり、文章の構成を考えて書くことができる。(書くこと)
- 物語を書くために、様子や行動、気持ちや性格を表す語句を使って、物語を書くことができる。(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

3 単元について

(1) 児童観

本学級の児童に対して、伝えたいことの内容を決め、文章の組み立てを考えて心に残った出来事を文章に書いているかについて実態調査を行った。その結果、心に残った出来事を思い出して「始め—中—終わり」の構成メモを作り、出来事を時系列で区切り、段落を分けて文章を書くことができた児童は*人であった。*人の中で、伝えたいことの内容を決めて書いていた児童は*人、印象に残った出来事を絞り、その時の様子や気持ちが読み手に伝わるように文章を構成していた児童は*人であった。文章の中で使われている言葉を見ると、様子や行動、気持ちを表す語句を入れて文章を書いていた児童は*人であった。行動と気持ちに関する語句を入れて文章を書いていた児童は*人で、気持ちに関する語句しか入れていなかった児童が*人であった。これらのことから、書く内容の中心を明確にし、様子や行動に関する言葉を使って書きたいことが伝わるように内容のまとまりで段落をつくり、文章の構成を考えて書くための指導が必要であると考える。

(2) 言語活動とその特徴

本単元では、小学校第3学年「人物を考えて書こう」の学習において、登場人物の会話や様子について4枚の絵から想像を広げ、場面のつながりを考えて物語を創作するという言語活動を設定した。想像したことを基に、4枚の絵から読み取った様子、行動、情景、気持ちを入れて物語を創作することで、「書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。」(B書くことイ)を実現できるようにしている。

(3) 教材観

本教材は、「書くこと」の「物語の創作」を扱っている。物語を創作する活動を通して、想像を広げて表現する力や、材料の収集、構成、記述の力を身に付けることができる。絵を見て想像することで、児童の意欲を高め、書きたいことを明確にして、内容のまとまりで段落をつくり、文章を構成するのに適した教材であるといえる。

(4) 指導観

本単元では小学校第3学年「人物を考えて書こう」の学習において、登場人物の会話や様子について4枚の絵から想像を広げ、場面のつながりを考えて物語を創作するという言語活動を行う。まず、絵から行動、会話、情景、気持ち及び登場人物の人物像について想像したことを付箋に書く。想像した理由を交流し、あらすじを考え話の中心を決める。物語を書くために必要な付箋を選び、材料を絞る。次に、絵と想像したことを関連付けるための構成シートを活用し、読み手に伝わるよう、選んだ付箋を並べ替え、物語の大まかな構成を考える。この時、既に学習した「サーカスのライオン」を基に、「冒頭部—展開部—終結部」という物語の構成を示し、場面のつながりを意識できるように「時を表す言葉」を再確認する。その後、場面ごとに物語を創作する。その際に、物語の創作に必要な様子や行動、気持ちや性格を表す語彙や場面をつなぐ言葉を集めた「言葉の広場」を示し、文章を書く時に自由に使えるようにする。さらに、創作した物語をグループで読み合い、書こうとしたことが明確になっているかを確認し、構成を見直して物語を完成させる。以上のような学習活動を行えば、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくり、文章の構成を考えて書く力が育つであろうと考える。

4 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
・絵から想像を広げて、意欲的に物語を書こうとしている。	・書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくり、文章の構成を考えて物語を書いている。 B—イ	・物語を書くために、様子や行動、気持ちや性格を表す語句を増やし物語を書いている。

5 単元の指導計画（9時間扱い）

次	時	学習活動・内容	指導上の留意点と評価規準（評価は㊦）
1	1	<p>絵を見て物語を書くための、学習計画を立てよう。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 児童が知っている物語の登場人物や出来事について発表する。 2 学習活動について確認する。 3 1枚目の絵を見て、気付いたことを付箋に書き、出し合う。 4 絵をよく見ると、どんなことが想像できるかを確認する。 5 本時の学習を振り返り、次時の学習の見通しをもつ。 	<p>○既習の文学的文章について振り返り、楽しく読める物語を書きたいという思いをもてるようにする。</p> <p>○「サーカスのライオン」の内容を振り返り物語の登場人物の行動や会話から気持ちが伝わることを確認できるようにする。</p> <p>○学習の見通しをもつことで、物語を創作する手順を理解できるようにする。</p> <p>○1枚目の絵については、学級全体で想像したことを出し合うことで、どのような観点で想像していけばいいかが分かるようにする。</p> <p>○絵を見て想像したことを分類し、物語を創作するための材料を確認する。</p> <p>㊦絵から読み取ったことを基に、想像を広げようとしている。（関 観察・付箋）</p>
2	1	<p>4まいの絵から想ぞうして、「物語のタネ」を見つけよう。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 前時を振り返り、想像する視点（行動、会話、情景、気持ち）を確認する。 2 4枚の絵から想像できることを付箋に書き、物語のタネシートに貼る。 3 絵から想像したことをグループで出し合う。 4 本時の学習を振り返り、次時の学習の見通しをもつ。 	<p>○4色の付箋を使うことで、想像する視点を明確にする。</p> <p>○拡大した絵を提示し、絵のどこを見るかで想像する内容が広がることを理解できるようにする。</p> <p>○行動、会話、情景、気持ちについて、色別の付箋に書くことで、想像した内容が一目で分かるようにする。</p> <p>○言葉で説明することで、想像したことをより具体的に伝えられるようにする。</p> <p>㊦4枚の絵から行動、会話、情景、気持ちを想像し、付箋に書いている。（書 付箋・物語のタネシート）</p>
	2	<p>想ぞうしたことをもとに、登場人物について考えよう。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 絵から想像したことを基に、登場人物の人物像を考える。 2 グループで交流し、登場人物になりきって自己紹介する。 3 物語のあらすじを考える。 4 本時の学習を振り返り、次時の活動の見通しをもつ。 	<p>○「サーカスのライオン」に出てくる登場人物について振り返り、人物像に結び付く言葉や表現を提示する。</p> <p>○付箋に書いた物語の材料を基に、性格や好きなこと、得意なこと、苦手なこと、口癖などを考えられるようにする。</p> <p>○想像したことを交流することで、人物の性格を設定しづらい児童も、仲間の意見を参考にできるようにする。</p> <p>○新たに考えたことや、付け加えたいことを人物メモに記入できるようにする。</p> <p>○絵から想像したことから、それぞれの段落について話の中心を明確にすることができるようになる。</p> <p>㊦4枚の絵から、登場人物の人物像を考え、物語のあらすじを書いている。（書 人物メモ）</p>
	3	<p>「物語のタネ」を使って、どんな物語にするかを考えよう。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 前時のあらすじをもとに、構成を考える手順を理解する。 2 絵から想像したことを伝えるために必要な付箋を選ぶ。 	<p>○物語の構成を考える際に、既習の「サーカスのライオン」の場面を提示し、話の流れを考える際に、参考にできるようにする。</p> <p>○4枚の絵から想像したことをすべて使うのではなく、人物像やあらすじを基に伝えたいことが伝わる内容を選べるようにする。</p> <p>○選んだ材料が足りない場合は、児童が話の内容を説明することで、うまくつながらないことに気付けるようにする。</p>

	<p>3 付箋の順番を考え、お話シートに並べ替え、話の大まかな構成を考える。</p> <p>4 グループで、絵と付箋の内容が揃っているかを確認する。</p> <p>5 本時の活動を振り返り、次時の活動の見直しをもつ。</p>	<p>○1枚の絵を1つの場面と捉え、内容を大まかに考えることで、物語の構成を捉えられるようにする。</p> <p>○グループで話し合うことで、想像したことが読み手に伝わるかを確認し、相手意識をもって書くことができるようにする。</p> <p>㊦4枚の絵から想像したことが伝わるように物語の材料を選び、大まかな構成を考えている。(書 お話シート)</p>
4 5	<p>お話シートをもとに、わくわくするような物語を書こう。</p> <p>1 大まかな構成を確認し、物語を書く手順を理解する。</p> <p>2 場面ごとに物語を書く。 (1) 付箋1枚から一文以上書く。 (2) だれの行動や会話なのかが分かるように段落の内容を書く。 (3) 段落と段落をつなぐ。</p> <p>3 本時の学習を振り返り、次時の活動の見直しをもつ。</p>	<p>○物語を書き始める前に、モデル文を提示しどんな言葉を使って書くと、想像したことが伝わるかを考えられるようにする。</p> <p>○「言葉の広場」を提示し、想像したことをどんな言葉で書けばよいかを考える際に、手元に置いて使えるようにする。</p> <p>○場面ごとに100字の用紙に物語を書いていくことで、書くことが苦手な児童も、枚数が増えていく達成感を味わえるようにする。</p> <p>○絵の下に物語を貼る物語シートを作成し、構成を確かめられるようにする。</p> <p>㊦想像したことから言葉や表現を選んで、様子や気持ち、行動や情景を書いている。(書 物語シート)</p> <p>㊦想像したことを伝えるために必要な、性格・行動・情景・気持ちに関する言葉を用いている。(言 物語シート)</p>
3 1 本時	<p>だん落ごとの話がつながっているかをかくにんし、物語を見直そう。</p> <p>1 本時の学習課題をつかむ。</p> <p>2 物語とお話シートを比較し、場面のつながりについて確認する。</p> <p>3 物語の構成を見直す。</p> <p>4 本時の学習を振り返り、次時の活動の見直しをもつ。</p>	<p>○書いた物語をつなぐための工夫について、既習の「サーカスのライオン」を提示し、時を表す言葉を用いることで場面の変化が伝わることを理解できるようにする。</p> <p>○アドバイス用のカードを2種類用意し、グループで読み合うことで、読み手の立場から話のつながりを確認できるようにする。</p> <p>㊦場面のつながりを意識して、自分が書いた物語の構成を見直している。(書 お話シート、アドバイスカード)</p>
2	<p>友だちのアドバイスを生かして読み手に伝わるように見直そう。</p> <p>1 アドバイスカードの内容をもとに、自分の物語を読み直す。</p> <p>2 言葉を付け加えたり表現を変えたりしながら、物語を完成させる。</p> <p>3 本時の学習を振り返り、次時の活動の見直しをもつ。</p>	<p>○4枚の絵を各場面の挿絵に使い、物語を完成させることで、絵から想像したことと段落の内容が合っているかを再度見直せるようにする。</p> <p>○黒板に見直しの手順を掲示し、物語シートの場面のつながりや、話の流れがずれていないかを確認できるようにする。</p> <p>㊦場面と場面がつながるように構成を考えて書けたか確かめている。(書 物語シート)</p>
3	<p>友だちと書いた物語を読み合い読んだ感想を伝えよう。</p> <p>1 グループでお互いの作品を読み感想をカードに書く。</p> <p>2 書いた物語をグループで1つずつ発表する。</p> <p>3 今後、物語を読む時や書く時にどんなことを生かせるか、自分の言葉で単元の活動を振り返る。</p>	<p>○物語と構成シートを比べながら読み、詳しく書いていることに気付けるようにする。</p> <p>○感想の書き方を確認し、読み手の立場で伝わったことが何かを書けるようにする。</p> <p>○全体で物語のいくつかを発表し、物語を書く楽しさを再確認できるようにする。</p> <p>○書き手の立場から、どのように物語を読みたいかを考えられるようにする。</p> <p>㊦友達の話を読み、よさや工夫を見つけて伝えている。(書 カード)</p>

6 本時の指導

(1) 目標

場面のつながりを考えて、物語の構成を見直すことができる。

(2) 準備・資料

学習計画表、拡大資料、お話シート、カード、付箋、「言葉の広場」

(3) 展開

学習活動・内容	指導上の留意点・評価（評価は㊦）
<p>1 本時の学習課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>だん落ごとの話がつながっているかをかくにんし、物語を見直そう。</p> </div> <p>2 書いた物語とお話シートを比較し、場面のつながりについてグループで確認する。</p> <p>(1) 場面がうまくつながっていない例を挙げ、何を確認し合えばよいか理解する。</p> <p>(2) 書いた物語とお話シートを比べて、場面ごとに内容を読み合う。</p> <p>(3) 場面のつながり方のよい点や見直しが必要な点を、付箋に書いて交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よい点→なるほどカード ・見直しが必要な点→知りたいなカード <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>〈予想される児童の反応〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たぬきときつねがいる場所を変えたことで場面が変わったことが分かるね。 ・だれの言葉か分かるように「〇〇が言いました」をつけたそう。 </div> <p>3 知りたいなカードの記述を基に、自分が書いた物語の構成を見直す。</p> <p>(1) 場面がつながっていない場合には、時を表す言葉を付け加えたり、つなぐ言葉を足したりして、場面が変わったことが分かるようにする。</p> <p>(2) 話の展開が絵に合っていない場合には物語の材料と絵をもう一度見比べて、直した方がいい表現を見付ける。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>〈予想される児童の反応〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1枚目と2枚目の絵の内容を続けて書いているから、段落を変えよう。 ・会話文の中に相手の名前を入れ、話している人物が分かるようにしましょう。 </div> <p>4 本時の学習を振り返り、次時の見直しをもつ。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>〈予想される児童の反応〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・想像したことを使って、分かりやすく物語を書けてよかった。 ・友達は様子をくわしく書いていたのでたぬきの様子が分かるようにしたい。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までの物語を書く活動を振り返り、様子や行動、気持ちや情景が読み手に伝わるような物語が書けているかを見直すことを伝え、本時の学習の見直しをもつ。 ・グループで物語を読み合う時に確認することを提示し、学習に対する目的意識を明確にする。 ・活動を始める前に、つなぐ言葉や絵に合った段落の区切りなど、構成を見直す時に気を付けることを児童から引き出すことで、学習の進め方を理解できるようにする。 ・物語を創作する前に確認した既習の物語「サーカスのライオン」の構成を再確認し、場面の変化に沿って出てくる「時を表す言葉」が、場面をつなぐ際に使われているかを意識して交流できるようにする。 ・本時では、お話シートに貼られている物語の材料を使って文章が書けているかを見るため、絵から想像した「情景」「動作」「会話」「気持ち」が入っているかどうかと、物語の読み手に想像した内容が伝わっているかを確認するようにする。 ・なるほどカードのやり取りをすることで、見直しが必要な点だけでなく、つながり方や書き方でまねたい点も伝えるようにする。その結果、構成を見直す際に、友達の文章を参考にしながら、どの部分を見直すと想像したことがより読み手に伝わるかを考えられるようにする。 ・お話シートをラミネート加工し、付箋を活用することでどの部分を見直したいのかが一目で分かるようにする。 ・文章の構成の見直しでつまづいている児童には、知りたいなカードの内容をヒントに、どこを見直せばよいかグループの人に相談するように助言する。 ㊦場面のつながりを意識して、自分が書いた物語の構成を見直している。 (㊦ お話シート、カード) ・場面がうまくつながっている児童には、話の構成を考えて書けていることを称賛し、より詳しく様子や気持ちを読み手に伝えるために会話と動作に着目し、見直ししたいことを見付けられるようにする。 ・段落と段落がうまくつながらない児童には、再度「サーカスのライオン」の文章を提示し、時間と登場人物がいる場所の変化について書くことで場面が変わったことを理解できるようにする。その後、書いた物語をもう一度読み返すことで、どこを見直せばよいか気付けるようにする。 ・振り返りを行うことで、つなぐ言葉を入れて場面を変えたり、様子や動作を入れてより読み手に伝わるような物語を完成させたいという意欲が高められるようにする。 ・次時では、表記を含めて最後の推敲を行い、物語を完成させることを伝える。今回の学習で気付いた友達の物語のよさや、次時の授業で意識したい場面のつながりに関する工夫について児童の発表を聞くことで、構成の見直しの重要性に気付けるようにする。